

2023 年度第 1 回アドバイザーグループ会議

2023 年 5 月 15 日（月）に Zoom を用いたバーチャル会議方式で開催されました。今回アドバイザーの交代があり、4 名の新規アドバイザーを得て、活発な論議が行われました。アドバイザーのリストは以下のとおり（アイウエオ順）で、新たに就任された方には○を付してあります：池上 清子（長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科客員教授）、池田 千絵子（国立国際医療研究センター国際医療協力局長）、○亀井 温子（独立行政法人国際協力機構人間開発部長）、○杉田 勝好（アステラス製薬株式会社専務役員）、曾根 智史（国立保健医療科学院長）、林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所副所長）、○馬淵 俊介（グローバルファンド保健システム及びパンデミック対策部長）、○山本 尚子（国際医療福祉大学大学院特任教授）

会議では、中谷センター長より令和 4（2022）年度年次活動を報告し、以下の 3 点を強調しました。①新規採用者はコロナ禍の 2020 年度に半減し、22 年度はほぼ 2019 年度レベルに回復したが、幹部職員の送り込みという観点からすると、比較的ジュニアな方の採用が多い結果となった。そのため 2022 年は種々の新しいアプローチを開始した。それらは、新しい人材プールの開発、研修会の充実と個別化、ライフステージへのアプローチ、邦人職員の内部昇進の支援等。②基盤となる活動についても進捗があり、人材登録・検索システムの質の向上を図るとともに、登録者の拡大が図られ 800 人を超える登録者を得た。③その他、関連機関と連携して、わが国の国際保健人材の強化に資する活動に参加している。例えばグローバルヘルス政策研究センターと協力して国際保健外交ワークショップの企画と実施に参画する等、パートナーシップを積極的に組んで、活動のインパクトを高めるよう努めている。次いで、センターとして目指すべき第二期（2021～2025）到達目標について意見交換がなされました。その前提として保健関係国際機関の職員等の推移（2015-2021）を中谷センター長が説明しました。そのポイントは、①幹部職員の数字だけを見ると 2015 年度の 34 人（世銀含む）から 2016～20 年度は世銀情報が得られなかったため、2020 年度は 31 人（世銀含まず）と「減少」した。再び世銀情報が得られるようになった 2021 年度は世銀を含めば 41 名、除けば 33 人となった。従って、2015 年度より数字は改善している。②規範セッターとして世界基準を作る、あるいは、資金配分に影響力を与えるポジションに邦人を送り込むことも、国際保健分野でのわが国の影響力を拡大するために必要であるとして数値をとってきた。そのような中、WHO が 2021 年度より新たなカテゴリーの助言組織（Advisory Group）に加わる専門家数を報告するようになったため、規範セッター邦人数が倍増した。このように基準となる数字が固まらない中でどのような数字目標を第二期（2021～2025）到達目標（案）として設定するかについて意見交換が行われ、次回アドバイザーグループ会議で関係の数字をより分かり易く整理した上で、再度論議することとなりました。

最後に、地引人材情報解析官より、2023 年度活動計画を説明したところ承認を得ましたので表に示します。

2023 年度活動計画

年	月	日	内容
年間			<ul style="list-style-type: none"> 人材登録・検索システム運営・マッチング 人材登録・検索システム登録者及びメーリングリスト登録者への求人・セミナー等に関する情報発信 進路相談・カウンセリング 履歴書・筆記試験・面接等技術指導 国際機関就職説明会（年間 4 回程度） グローバルヘルス・ロールモデル・シリーズ・インタビュー 厚生労働科学研究「グローバルヘルス分野の国際機関におけるキャリア形成と幹部人材育成ならびにガバナンス会議における効果的かつ戦略的関与に資する研究」 幹部候補者とのネットワーク形成・アフターケア
	4 月	上旬	邦人職員数調査（3～6月）
		下旬	ニュースレター発行
5 月	15 日		アドバイザーグループ会議
6 月	上旬		邦人職員数調査報告書作成
	8 日		在ロンドン留学生・転職希望者向けグローバルヘルス・キャリア・セミナー
	16 日		令和 5 年度次世代国際保健リーダー送り込み強化事業、シンポジウム/ワークショップ実施業務公示審査会・公示開始
	24 日		次世代国際保健リーダー勉強会
7 月	下旬		<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度次世代国際保健リーダー送り込み強化事業、シンポジウム/ワークショップ実施業務 実施者決定・開始 ニュースレター発行
	8 月	5 日	社会疫学者のためのブリーフィングセッションー 規範セッター入門
9 月	2 日		次世代国際保健リーダー勉強会
	中旬		<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働科学研究の NCGM 倫理審査委員会による審査・合格後研究開始 アドバイザーグループ会議
	下旬		エグゼクティブ・サーチ・ファームからみた国際機関幹部の人材像セミナー（時期未定）
10 月	中旬		<ul style="list-style-type: none"> 在ニューヨーク留学生・転職希望者向けグローバルヘルス・キャリア・セミナー 在ボストン留学生・転職希望者向けグローバルヘルス・キャリア・セミナー
	下旬		<ul style="list-style-type: none"> ニュースレター発行 官民フォーラム（時期未定）
	11 月	26 日	グローバルヘルス合同大会 2023 共催シンポジウム「多様性が求められるグローバルヘルス人材：どうする日本人？」
12 月	9 日		Go UN Workshop
	10 日		国際機関職員による個別進路相談会
	16-17 日		グローバルヘルス・ディプロマシー・ワークショップ
	23 日		次世代国際保健リーダー勉強会
1 月	上旬		各種 2023 年度実績報告書作成、各種 2024 年度活動計画書作成（2024 年 1 月～4 月）
	下旬		<ul style="list-style-type: none"> 幹部職員向け内部人材昇進に向けた人材開発セミナー（時期未定） ニュースレター発行
2 月	下旬		若手・中堅職員向け内部人材昇進に向けた人材開発セミナー（時期未定）

■ 人材登録のお願い

7 月 12 日現在、838 名の方が人材登録・検索システムに登録されており、ご希望に応じた空席情報がマッチング・メールにて届くようになっていきます。人材登録・検索システムの使い方に関する動画も登録ページに掲載

しています。未登録の方は登録されますようお願いいたします。

<https://hrc-gh-system.ncgm.go.jp/>



グローバルヘルス・キャリア・セミナー in London (2023年6月8日)

中谷センター長がグローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) 理事会出席の為にロンドンに出張した機会に、キャリア・セミナー (完全バーチャル方式) と個別相談会 (対面方式) を開催しました。参加者はキャリア・セミナー 43 名、個別相談会は 6 名で、参加登録者はロンドンに限らず、英国の他の都市 (リバプール、エディンバラ、オックスフォード、シェフィールド)、更には英国国外からも、日本、ボストン、ジュネーブ、バンコク、ラオス等と世界各地に及びました。セミナーでは中谷センター長と地引人材情報解析官からのブリーフィングに引き続き、WHO 本部の岡本翔平氏から JPO への道のりと今後のキャリア形成への意気込みを伺い、その後、活発な質疑応答が行われました。個別相談会は、高度専門臨床、獣医学、感染症理論疫学、理学療法など多彩な背景から国際分野を目指す方々のキャリア相談と相互間の意見交換が行われ、

楽しく学びの多い場となりました。参加者のフィードバックが極めて好意的であったことに励まされ、今後は、このような機会を積極的に設けて国際機関志望者数の底上げを図ってまいります。秋には北米と同様の企画を実施する方向で考えていますのでご期待下さい。写真は個別相談の会場となった John Snow Pub の外観です。汚染された井戸水がコレラ蔓延の根源であることを突き止め疫学の祖となった John Snow 博士の功績を顕彰して、問題の井戸の前のパブの名称となったとのこと。なお、井戸の取っ手は蔓延防止策として撤去され、今は、ロンドン大学衛生熱帯医学校に保存されています。



グローバルヘルス・ロールモデル・シリーズの掲載

国際保健分野でのキャリアを考える際ネックになることが、ロールモデルになるような人物が身近にいなかったのがキャリアパスを具体的にイメージできないということです。そこで当センターでは世界の様々な地域で、また、グローバルヘルスの多彩な方面で活躍する日本人の方々にキャリア形成のプロセスをお尋ねし、センターのホームページ上に公開させて頂いています。

第 14 回は、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) シリア事務所プログラム・サポートオフィス長 (インタビュー当時の) 川口 尚子氏です。

第 14 回

インタビュアー 清水真理子



**国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) シリア事務所
プログラム・サポートオフィス長 (インタビュー当時)
川口 尚子** [かわぐち なおこ]

京都生まれ。米国ニューヨーク市立大学・国際犯罪司法学修士号取得、イスラエル国テルアビブ大学・紛争解決に係る政治学修士号取得。主にアフリカ・中東にて NGO、政府機関、国際機関などでコンサルタントとしてプロジェクト管理・評価に携わる。2016 年より国連プロジェクトサービス (UNOPS) マリ、ブルキナファソ、アフガニスタン事務所にてプロジェクト・マネージャー及び副マネージャーとして勤務。2021 年より国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) シリア事務所プログラム・サポートオフィス長として勤務。

——目標が見出せなかった中高時代、英語が苦手だったから、アメリカの大学に進学

京都生まれの大阪育ち、中学受験を無事突破したものの、中高時代はモチベーションがわかず、無為に過ごす日々、そんな時にミロシェビッチが人道に対する罪で起訴され、公判が行われました。その報道は、私が子どもの頃にみたユーゴスラビア紛争下、やせ細り、眼をぎらつかせて寒さに震えている、当時の私と同年齢の子どもたちのイメージとリンクしました。国際法廷という場できちんと子どもに対する理不尽な行為が裁かれる、これを私の将来の仕事にしたいとの思いが固まりました。成績はそれなりだったものの英語は大の苦手です。国際法を勉強するのなら英語は必須だが、日本の大学に進学してがんばったところでものにはならない、それなら海外の大学に行けば確実に英語ができるようになるだろうという今から考えると甘い気持ちで留学を決めました。TOEFL と ACT の点が取れ、当時は比較的授業料が安かったニューヨーク市立大学に合格しましたが、入学後は大変な苦勞をすることになります。

——苦手な英語は人の何倍も時間をかけ、努力する。犯罪司法学を学び、インターンを経て現場に出たい気持ちが高まる

国際法を勉強したいと思ってアメリカに行ったものの、アメリカはコモンローを基礎とする判例第一主義で私が想像していた正義のイメージとギャップがありました。実際に裁判を見学しても、「結局口が達者な人が勝つ」法律を学んで仕事にするイメージはわきませんでした。一方で、戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイドといったサブジェクトにひかれるようになり、国際犯罪司法学を専攻。卒論はボスニアの民族浄化についてまとめました。



テルアビブ大学院卒業式、学友と

大学卒業後、国際機関でインターンからコンサルタントとして働く機会を幸運にも得ましたが、一身上の都合で継続を断念しました。その後さまざま国際機関に応募しましたが、職歴がないので面接どころか書類選考ですべてはねられ、全く引っ掛からない日々を過ごしました。一時、フランスに短期滞在し、その後セネガルでフランス語の文書を英語でまとめるコンサルタントとして働き、この間にフランス語を習得しました。

その後、学部で学んだ「紛争の政治的な解決」をさらに深めるために、パレスチナ問題、ユダヤ人の問題について全く違う形で関わっているというイスラエルのテルアビブ大学院に進学、国際関係上難しい国だからこそ行ってみようと思い、紛争解決に係る政治学修士号を取得しました。

(続きは https://hrc-gh.ncgm.go.jp/job-global/role_model/ でお読みいただけます。)